

呼吸器内科

(スタッフ)

部長 : 安東 優
 主任医師 : 菅 貴将
 医師 : 矢部 通俊
 嘱託医 : 表 絵里香
 : 山谷 いずみ (10月から)
 専攻医 : 高木 龍一郎 (9月まで)
 : 里永 賢郎

はじめに、本年はワクチンの普及で忙しさが収まると思いましたが、その期待に反し、感染力の強いオミクロン株の出現で昨年同様多忙な年になりました。重症患者の数は明らかに減りましたが、入院の必要な軽症患者が増えた影響で一般病棟の閉鎖が相次ぎ、通常診療ができない時期がありました。今後の新型コロナウイルス感染患者の動向については、収束する気配が感じられます。しかし、再度流行期に突入する懸念を払拭することはできませんので、今後も感染予防、感染防御しながら診療せざるを得ないと考えております。

人事に関しては、2022年9月30日、高木龍一郎医師が大学病院へ異動となりました。10月1日から山

谷いずみ医師が赴任し異動のなかった菅貴将医師、表絵里香医師、矢部通俊医師、里永賢郎医師と合わせて、6人体制で診療、教育を行いました。

本年は、菅貴将医師がベスト指導医賞を受賞しました。忙しい日常診療の日々を送っているにも関わらず熱心な指導を評価された賜物であり、誇らしく喜ばしい限りです。今後の活躍を期待します。

(診療実績)

入院患者数は598名で、昨年と同等でした(図1)。入院の内訳は、緊急入院362名、予定入院236名であり、救急対応が多いことがわかります。外来患者数は、延べ患者数10,801名、新患979名でした。本年は昨年と比較して、総数は減少しましたが、新患者は若干増えました(図2)。コロナ感染で定期通院患者の受診控えがまだ遷延している可能性があります。入院内訳は肺がん245名、肺炎99名、びまん性肺疾患76例、慢性閉塞性肺疾患6例、アレルギー性疾患13例であり、コロナ肺炎は43例でした。本年は肺がんの比率が上昇し、コロナ肺炎の患者数は約半数に減りました(図3)。ワクチンの普及で一旦入院患者がいなくなりましたが、昨年末からのオミクロン株の流行(第8波)で、入院患者が急増しました。しかし当院においては呼吸不全の患者数はそれほど多くなかったことは幸いでした。

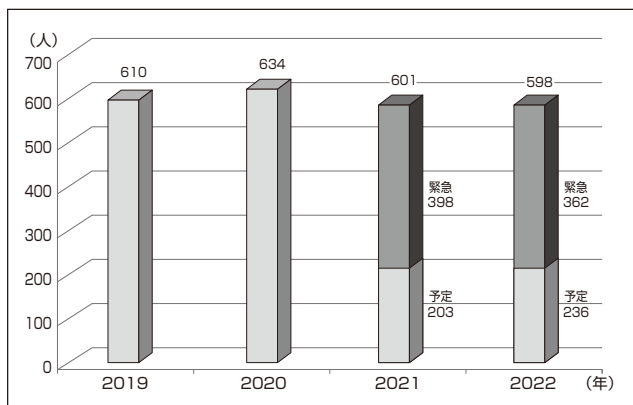


図1 入院患者数

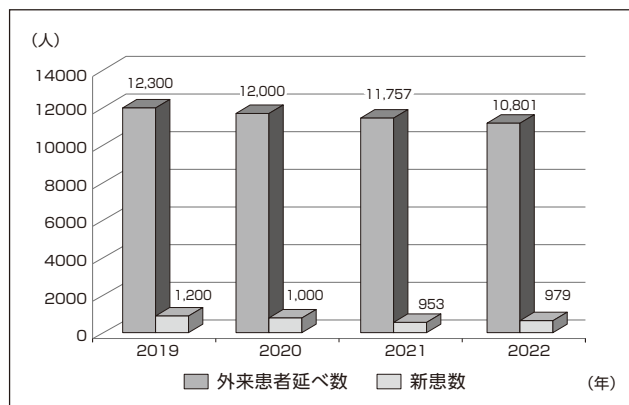


図2 外来患者数

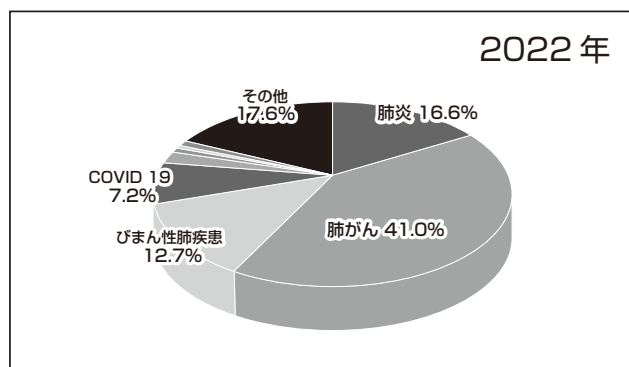
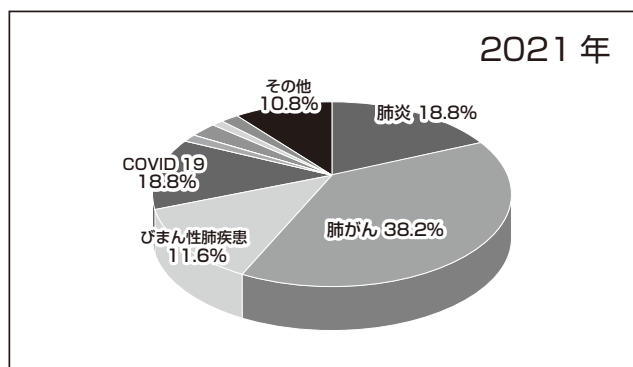


図3 疾患別入院患者内訳

